New

ほっこり通信　No.３

２０２３年度号

一社）佐賀県公認心理師協会ニューズレター

編集：事業広報委員会

九臨・心特集号

巻頭言
～　お　礼　～

この度は、九州臨床心理学会５１回佐賀大会にご協力いただきありがとうございました。当初は、地の利のない佐賀市での開催に不安を感じていましたが、ふたを開けてみると約２００名の参加者にご来場いただけるほどの大盛況でした。

佐賀大会は、本学会の１００周年記念大会開催を目標に「次の５０年に向けて原点回帰」というテーマで３日間の日程で計画したために、多くの時間と労力を要しました。しかし、おかげさまで本大会の第２のテーマであった、現場の要請に応え得る臨床家を養成するための事例検討会、スーパービジョンの在り方を再確認する機会としてデザインすることができました。私のイメージを具現化してくださった、ワークショップ、事例検討会、各種シンポジウムにご協力いただいた臨床家の方々と、準備委員会の皆様方に改めて感謝申し上げます。

本学会は、九州・沖縄各県の地区委員が事務局となって事例検討に重きを置いた伝統が受け継がれ、各県士会及び協会に委託されて開催されてきました。しかし、学会設立当時とは心理職をとりまく環境が変わり、その運営の在り方を再検討しなければならない時期になってきております。そのような状況の中、本大会を開催できましたことは、佐賀県公認心理師協会の会員の自信となり、知識や技術が新しい世代に引き継がれる機会になりましたことを申し添えておきたいと思います。

九州臨床心理学会第５１回佐賀大会

大　会　長　　徳　永　剛　志

本号は九臨心特集です！佐賀大会の全てのプログラムを振り返りたいところですが、日程の流れに沿いながら、いくつか取り上げていきたいと思います。

ワークショップ

○事例検討３時間

学会１日目のワークショップで発表をしました伊波です。ワークショップではさくら事例研究会のいつもの雰囲気を十二分に醸し出すことができたと感じました。大学院生も発言をしてくれ、“否定することなくお互いを尊重する”という安心感を感じ取ってくれたのではないかと思います。それだけでなく、他の参加者からも暖かく、尚且つそれぞれの視点、理論からの事例への理解を述べていただきました。発表者である私にとっても、参加者にとってもより多様な視点で事例への理解を進めることができたと思います。発表をすると反省もしますし、励まされもします。面接は、うまくいかないことが多く、自分には向いていないんじゃないか、このまま続けてもいいのだろうか、と後ろ向きな気持ちになることもよくあります。発表することで、みんなも頑張っているから自分も頑張ろうと思えました。皆様へ感謝しております。　（事例提供者：伊波清憲）

参加者からの感想

- １つの事例にこれだけ時間をかけ深堀りしていくことで、さまざまな視点が生まれ、見えてくるものがあるのだと改めて感じることができました。心理的安全性の場で自由に発言できる雰囲気を作って下さったことが有難かったです。あっという間の時間でした。本当に参加してよかったです。ありがとうございました。
- 時間が足りないくらいでした。

○【基本のキ】PCAGIP 法による事例検討

平日にも関わらず４０名近い方々にご応募いただきました。本当に即席のケースカンファレンスでしたが、様々な偶然が重なったおかげでファシリテーターに恵まれ、日常の臨床でクライアントとの関係性に悩んでいた参加者１名が事例を提供してくれました。金魚グループ、金魚鉢グループの参加者が事例提供者の安心感を確保しながら質問することにより問題が明確化され、クライアントとの「安心、安全」に対する価値観の違いに対して新しい解釈が参加者間の相互作用で導き出される過程を体験することができました。PCAGIP が始まった時の発表者の苦しそうな表情と、終わった時のにこやかな表情のギャップが印象的なカンファレンスでした。　（講師：徳永剛志）

参加者からの感想

- わかりやすくみんなが安心、安全に参加できて、会が終了した後も良い気分になれたことは本当に素晴らしいワークショップでした。ありがとうございました。
- 事例検討を PCAGIP 法で行うということでしたが、グループワークの雰囲気が懐かしく、そして暖かい感じがして、勉強になりながらも、すごく落ち着く空間を共有させてもらったように思います。
- 実際にピカジップをされている様子を近くで見ることができ、イメージがつきやすかったです。興味が湧きぜひ実践したいと思いました。

事　例　研　究

九州臨床心理学会第５１回佐賀大会では、２日目の２月３日（土）、午前中に１時間３０分枠で３事例、午後の２時間枠で３事例の事例研究を行いました。事例を通じての研究と学びは臨床家にとって根幹ともいえる経験であり、この度の大会においても需要なテーマの一つとなっています。県内外から３事例ずつ、大学の相談室や開業の心理室、事例を丹念に追っていくもの研究色の濃いもの、さらに分野も年齢も様々なクライエントとの貴重な出会いについて、ともに体験する場を持つことができました。事例を提供してくださった先生方、また温かくも堅実な臨床家の先達としてご意見を賜りました座長及びコメンテーターの先生方に改めてお礼を申し上げます。異なった様々な地域また職域から集まってくださった皆様と事例を通じて貴重な出会いを分かち合い、意見を交換することは不思議と普段ご一緒に仕事をしていなくても通じるところ、また反対に新鮮な気づきもあり、大変貴重な時間となりました。この経験が、また九州各地で皆様の臨床に反映されていくことを願っております。ご参加いただき誠にありがとうございました。

（事例研究班長：山口玲子）

参加者からの感想

- フロアーからの意見や助言で内容が整理されていくところが、事例研究らしく有意義な時間になりました。
- 検討の時間が短く感じるほど有意義でした。
- もう少し深く検討する時間があればと思いました。

今回は、90 分と 120 分の枠組みでの事例研究でしたが、皆さん時間が足りなく感じるほど、充実していたようです。やはり皆さん事例に引き込まれるようで、150 分、180 分枠があってもよかったかもしれませんね。

自主シンポジウム

○性犯罪者の処遇に何が必要か－施設内処遇から社会内処遇に向けて

「性犯罪者の処遇に何が必要か」の自主シンポジウムには、研修室の席に空きがないほど多くの参加者に詰め掛けていただきました。企画者として、加害者臨床にこれほど多くの方々に関心を持っていただけるとは正直思いませんでした。シンポジストは福岡県性暴力加害者相談窓口の相談員、スーパーバイザーから構成され、前半は刑務所で性加害者の処遇に携わる立場、保護観察所の処遇に携わる立場、行政の支援機関に携わる立場、医療機関でアディクション治療に携わる立場からの話題提供がありました。後半の１時間は、社会内で性問題行動を持つ対象者に対するアセスメントや対応を求めるフロアからの切れ目のない質問が相次いで活発なディスカッションが繰り広げられた、あっという間の２時間でした。

（企画者：徳永剛志）

参加者からの感想

- 性犯罪者の処遇というテーマは、個人的に興味のある分野で興味深く聞かせてもらいました。実際に、現場で働いている先生方のお話を聞くことができ、新鮮でした。
- 日々の業務に関することではありますが、昨年度までの職場よりも他機関へとつなぐという意識が薄めの職場に戻ったので、多職種連携、他機関との連携の必要性を考えることができました。
- 小中学校でも取り扱う課題になってきており、学びが得られました。

○臨床事例を通じたスポーツ臨床

今年は、佐賀県で国スポ・全障スポが行われることもあり、佐賀県公認心理師協会としては、都道府県の心理師会としては初めて全面的なスポーツへの心理支援を掲げています。とは言うものの、あまり馴染みのない領域でもあり、‘参加者は少ないだろうなぁ’と弱気に考えておりました。案の定、20 名程の参加者ではありましたが、来場して下さった方はこの未知の領域に‘何かに寄せられる’様にいらしたようにも思われました。

私は企画者でもありましたが、事例提供させて頂きましたが、無意識の表現の場としての「身体」ということに皆さん関心を抱いて下さり、ご自身たちの日々の臨床にも引き寄せながら意見や感想を口々にされていたのが印象的でした。話が深まっていく中で、皆さんの語りが、「被支援者に対しての」といった遠巻きな臨床のものではなく、より実感のある「私」の語りになっていたように感じました。

（企画者・事例提供者：細川佳博）

参加者からの感想

- アスリート臨床の現状が知れたこと。事例から自身の業務に活かせる所があったこと。
- 全く未知の世界でしたからワクワク致しました。
- イメージしていた内容とは異なりましたが、それ以上に引き込まれるものがありました。あらためて心理臨床の役割について考える時間にもなりました。参加者が少なくて残念でしたが、その分共有出来たかなと思います。

懇　親　会

九臨心佐賀大会にご参加された皆様ありがとうございました。また実行委員の先生方におかれましては、ご準備おつかれさまでした。そして交流会担当チームの青山先生・上田先生・サンボン先生・田中先生・細川先生、佐賀のおもてなし準備を楽しくご一緒できたことに感謝いたします。

交流会会場で県外参加者より「佐賀おもてなしコーナー」と同じ物を佐賀駅で購入出来るのかと尋ねられました。コーナーで上映した細川日本酒隊長・青山シュガーロード隊長作成の佐賀を味わう PP のおかげで、佐賀駅お土産売上にも貢献した佐賀大会になったことと思っております。

最後になりましたが徳永会長、数年ぶりの 3 日間開催となりました第 51 回大会実行委員長おつかれさまでした。会長のメインイベントである交流会が第 100 回大会に向けて皆さまの英気となったのであれば幸いです。

佐賀のおもてなしと、笑顔がたくさんの懇親会でした。

（懇親会担当：伊藤紀子）

大会企画シンポジウム

「〇〇における心理職の養成・協働―現場の要請に応え得る心理職の養成を目指して―」

今回、大会企画シンポジウムは「〇〇における心理職の養成・協働―現場の要請に応え得る心理職の養成を目指して-」と題して、4 人のシンポジストと 1 人の指定討論者にご登壇いただいた。

まずは中島由紀子先生から「職場における養成と協働」というテーマで、児童相談所における活動を歴史的な視点を交えながら職場内で SV やメンターもしていくことのメリットとデメリットの葛藤に関して

もご紹介いただいた。次に、山下美和先生から「地域における養成と協働」というテーマで、病院内に閉じこもらずに地域の中で地域のリソースを活かしながら心理支援活動をされている様子を具体的な内容も含めてご報告いただいた。三人目は高尾兼利先生で、「研究会における養成と協働」というテーマで高尾先生を中心に10年間続いているさくら事例研究会についてご紹介いただいた。そして四人目は池田好恵先生で、「職能集団における養成と協働」というテーマで当協会の前身である佐賀県臨床心理士会時代からの学校臨床委員会（旧・学校臨床部会）の取り組みに関してご紹介いただいた。最後に指定討論として、児島達美先生からは、バイザー*がSVという活動によってケース（クライエント）に影響する以上、バイザーはバイジー**だけでなくクライエントに対する責任も生じるし、だからこそバイザーとバイジーとの関係の中には「養成」という要素だけでなく「協働」という要素もあるという視点を提示していただいた。

社会が変わりゆく中でそれぞれの「現場」において心理職に対するニーズも変わってゆき、それに応じた柔軟な対応を模索していく中で自ずと個人としてだけでなく広い意味でのチームとしての対応が求められ、それぞれの「現場」におけるチーム内での協働、そしてチームによる養成が行われるようになっていると言えるかも知れない。そして、チームでのより良い協働、そして養成ということを考えたときに、今回、高尾先生が一つのヒントを与えてくれているのではないか。それは、「対等な関係にあってこそ人は成長する」という考えのもと、心理臨床のオリエンテーションが違っていても、経験年数が違っていても誰もが自分なりの意見や考えが言える対等性を特徴としたチームの姿である。近年、成長するチームがもつ特徴として心理的安全性というものが注目されており、さらには優れたチームのリーダーには共通してみられる口癖があることが分かっているという。それは何と、“I don’t know.” “I can’t do it.” だそうだ。なるほど確かに、「僕は知らないんだけど、誰か教えてくれる？」「今一つ分からないんですけど、皆さんはどう思いますか？」と、研究会のメンバー一人一人の声に耳を傾けている普段の高尾先生の姿が私の脳裏には浮かんでくる。(*バイザー：スーパーバイザー、**バイジー：スーパーバイジー)

（大会シンポジウム担当：松島淳）

来年度の九臨心開催は沖縄です！沖縄からご参加くださった国生先生に、本大会の感想と沖縄大会に向けて一言いただきました☆

佐賀 ≈≈≈ 【第 51 回九臨心佐賀大会に参加して】 ≈≈≈ 沖縄

沖縄県公認心理師協会　副会長

国生まゆみ

「はいたい。ぐすうよお、ちゅうがなあびら？」今日は。皆さま、お元気ですか？沖縄の国生です。

2 月の九州臨床心理学会第 51 回佐賀大会では大変お世話になりました。久しぶりに対面での学会に参加し、「今・ここ」の空気を直に感じられる対面の良さを実感しました。ワークショップも事例研究も、最後のシンポジウムも、講師の先生方や他の参加者の熱気に触れ身も心も引き締まる思いがしました。迎える側は大変だったことと想像しますが、スタッフの皆さまの暖かい笑顔と細やかなお気遣いが印象に残っています。懇親会は（立食ではなく）テーブルが用意され、美味しいお料理と地酒を味わいながら他の先生方とゆっくりお話しができて愉しかったです。スタッフの皆さまがお忙しい中にも余裕のある和気あいあいとした雰囲気を醸し出せるのはなぜだろうと思ったのですが、細川先生から「佐賀の県師協は他県出身の人も多い多国籍軍」また「皆、フットワークが軽く、お願いしなくてもすっと動いてくれる」と聞いて納得しました。多様性・ダイバーシティが上手く機能している組織の模範例なのだと。もう一つの疑問、駅前にお店が何もないのにお洒落な美魔女ぞろいなのは、「福岡まで買い物に行くらしい」という噂を聞き、これも納得しました(笑)短期間でしたが、皆さまとの交流を通じて、佐賀のディープな魅力の一端に触れられたように思います。

案内はこれからですが、来年 2 月 8 日～9 日には沖縄大会が開催される予定で、佐賀大会を参考にさせて頂き充実した内容にするべく準備を始めています。例年 2 月半ばには桜も満開となる暖かい沖縄に、観光も兼ねて是非足をお運びください。会員一同、皆さまをお待ちしています。「にふぇーでーびたん。またやあたい！」ありがとうございました。またお会いしましょう！